

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 9 日 (2006.3.9)

【公表番号】特表 2002-519154 (P2002-519154A)

【公表日】平成 14 年 7 月 2 日 (2002.7.2)

【出願番号】特願 2000-557872 (P2000-557872)

【国際特許分類】

A 6 1 L 17/00 (2006.01)

A 6 1 L 31/00 (2006.01)

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

C 0 8 L 69/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 17/00

A 6 1 L 31/00 B

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 69/00

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 1 月 19 日 (2006.1.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 第一の生体再吸収性ポリマーと第二の生体再吸収性ポリマーからなり、第一の生体再吸収性ポリマーがブロックコポリマーで、第一の生体再吸収性ポリマー内にミクロフェーズ分離があり、第一及び第二の生体再吸収性ポリマー間にマクロフェーズ分離があるブレンドからなる生体再吸収性ポリマー組成物。

【請求項 2】 第一の生体再吸収性ポリマーのブロックが、飽和又は不飽和のエステル、オルソエステル、カーボネート、無水物、エーテル、アミド又は糖類である請求項 1 に記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 3】 第一の生体再吸収性ポリマーのブロックが、ポリエステル又はポリカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 4】 第一の生体再吸収性ポリマーのブロックが、グリコライド、ジオキサノン、ラクチド、トリメチレンカーボネート及びカプロラクトンからなる群から選択される環状モノマーから誘導される請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 5】 コポリマーブロックが、ポリグリコール酸又はポリトリメチレンカーボネートからなる請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 6】 第一の生体再吸収性ポリマーが PGA-PTMC-PGA である請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 7】 第二の生体再吸収性ポリマーがホモポリマー、ブロックコポリマー又はランダムコポリマーからなる請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 8】 第二の生体再吸収性ポリマーが生体再吸収性の脂肪族のポリエステル又はポリカーボネートからなる請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 9】 第二の生体再吸収性ポリマーが、グリコライド、ジオキサノン、ラ

クチド、トリメチレンカーボネート、カプロラクトンからなる群から選択される環状モノマーから誘導される請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 10】 第二の生体再吸収性ポリマーがポリ乳酸である請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 11】 第一の生体再吸収性ポリマーが分散相を形成し、第二の生体再吸収性ポリマーが連続相を形成する請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 12】 第二の生体再吸収性ポリマーと第一の生体再吸収性ポリマーの各ブロック型が全て異なる再吸収速度を有する請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 13】 第一の生体再吸収性ポリマーのブロック型の 1 つが、第一の生体再吸収性ポリマーの他のブロック型及び第二の生体再吸収性ポリマーの双方よりも高い再吸収速度を有するように選択される請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物。

【請求項 14】 請求項 1 ~ 13 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物からなる医療器具。

【請求項 15】 第一及び第二のポリマーを加熱して第一及び第二のポリマーの溶融物を形成し、当該溶融物をブレンドする工程からなる、請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 つに記載の生体再吸収性組成物の製造方法。